

「第14回TQM活動発表セミナー」が開催されました。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2020年2月8日（土）に「健育会グループ第14回TQM活動発表セミナー」が、「東京コンファレンスセンター・品川」で開催されました。

TQM活動発表セミナーは、健育会グループが毎年2月に開催する恒例行事の一つです。審査員長を務めていただいた東邦大学医学部の長谷川友紀教授をはじめとする計7人の審査員やご来賓16人を含む、約210人が参加。グループ内からは、各病院・施設の幹部職員やTQM活動を行ったチームのメンバーが集まりました。セミナー冒頭は、私が下記のあいさつを行いました。

健育会グループは、昨年石巻健育会病院が中心になって「第21回フォーラム『医療の改善活動』全国大会 in 仙台」を運営しました。全国大会を運営したということは、健育会グループのTQM活動に対する積極性とレベルの高さが評価されたからだと思います。石巻健育会病院をはじめ、応援に駆け付けた各病院・施設の皆さんの努力の甲斐があり、全国大会は大成功を収めることができました。各方面からお褒めの言葉を頂いております。

全国大会を終えた我々は、次のステップに進まなければいけません。今年は診療報酬改定が実施されます。厚生労働省は、病院の数を減らすという方針を全面的に打ち出しており、厳しい診療報酬改定が予想されます。今後も我々が輝き続けるためには、効率かつ効果的な病院運営が必要になってきます。効率的な運営だけならそれほど大変ではありませんが、それに加えて成果を上げるということになると大変難しい。しかし、そこは歯を食いしばって頑張っていかなければいけません。

我々が輝き続けるための原点になるのが、TQM活動だと思っています。TQM活動はチームで行い、まさに健育会グループが今年掲げるワンチームで達成するものです。ラグビーは、色々な国の人間が参加しているために、あえてワンチームを掲げているはずですが、多様性があるからこそ、一つのビジョンに向かって進むために、ワンチームという意識が必要になるのだと思います。TQM活動も、さまざまな職種の人が集まってチームを作っています。しっかりとワンチームになり、効率的で効果的な病院経営に直結する活動かどうかという観点で、それぞれの発表を見たいと思います。



今回のセミナーで発表されたのは、グループ内の2019年度各地区予選会で選ばれた全19題で、過去最多の演題数になりました。前半10題、後半9題の2部制で行われ、審査員長の長谷川先生は全ての演題を審査。さらに前半10題の審査員として株式会社ケアレビュー代表取締役・加藤良平さま、株式会社ベックスコーポレーション代表取締役会長・香川哲さま、千代田監査法人統括代表社員・大木一昭さまに加わっていただき、座長は花川病院の丹羽すみ子看護部長が務めました。前半に発表された演題名とその活動が行われた施設名、発表者（職種）、チーム名などは下記のとおりです。

発表《前半》

1

有料老人ホームにおける看取り介護の周知率の向上

ライフケアガーデン湘南
長崎 克俊（介護福祉士）
チーム名：最後まで寄り添い隊



2

集団食事における業務ミスの削減

いわき湯本病院
丹野 美沙（作業療法士）
チーム名：Eat well



3

抜針事故発生件数の低減

茅ヶ崎セントラルクリニック
遠藤 洋斗（臨床工学技士）
チーム名：テープ見直し隊



4

朝食時のパンにおける食事満足度の向上

介護老人保健施設しおん
佐藤 碧美（調理師）
チーム名：食いしん坊バンザイ！



5

食事の進まない患者におけるソフト食の導入

熱川温泉病院
村木 美奈江（管理栄養士）
チーム名：おいしい！を届ける隊



6

しおさいにおける施設類型加算型の継続

介護老人保健施設しおさい
與後 智明（支援相談員）
チーム名：チームの輪



7

回復期リハビリテーション病棟における スタッフ介入中のセンサーコールの減少

竹川病院
澤田 紗野香（看護師）
チーム名：軽減狼率



8

有料老人ホームにおける満足な浴槽入浴の提供

ライフケアガーデン熱川
千島 大樹（介護職員）
チーム名：源泉かけ流し三昧



9

特別養護老人ホームにおける 整容の実施が不十分なご利用者数の低減

ケアポート板橋
永盛 敬太（介護福祉士）
チーム名：爪ポート板橋



10

当院における病棟から外来への退院前 看護申し送り実施率の向上

石巻健育会病院
遠藤 千恵（看護師）
チーム名：つなぐWA!



前半最後の発表に続き、座長の丹羽看護部長から各演題について下記の講評をいただきました。

演題1は、施設におけるご逝去が増え、看取り介護加算を取得している中で、看取り介護内容の理解を深めたいということから活動に取り組みました。対象者全員が、看取り介護の理解を深め、目標を達成するという素晴らしい成果でした。その中で、自主的にカンファレンスに参加する職員が増えて、看取り介護加算の重要性の理解も進みました。最終目標は、看取り加算を取得しているので、看取りケアの充実です。今後も、歯止めの管理の中に新しい入職者の教育もしっかり盛り込み、ご本人やご家族の思いを取り入れたケアや看取りカンファレンスの充実に取り組んでいただけたらと思います。

演題2は、皆で食べるおいしさや楽しさを提供したいということから業務ミス改善に取り組み、目標を達成されました。リハ部の中で何度も話し合って仕組みを作り、波及効果でも患者さんから喜びの声が聞かれ、患者満足の向上にもつながった素晴らしい取り組みでした。ただ、この取り組みを通して、食事量の増加はどうだったのか、食事動作の向上、自食に対する耐久性の向上などについても、客観的な評価の中に入っていると良かったのではないかと思います。今後も病棟スタッフと一緒に、集団食事を継続していただきたいです。

演題3は、透析中の抜針は重大事故につながるため、年1回といえども緊急性が高いということで、取り組まれたテーマでした。目標を、透析時の抜針事故を0にするということでしたが、操作ミスが1件発生してしまい達成できませんでした。しかし、更に対策がされたことは良かったと思います。ただ、現状把握の中で、インシデントの内容をもっと深く掘り下げると、その操作ミスに関して何か出てきたのではないのでしょうか。また、有形効果の中で、テープの強度などを測定したのは良かったのですが、今回はテープの固定と素材の見直しということから入っていました。コストの削減効果はどうだったのかということも明らかにすると良かったと思います。

演題4は、従来の朝食のパンは、ジャムを変えただけであったため、パンの献立のバリエーションを増やし、豊かなパン食の提供に取り組まれて、目標を達成されました。色々なパン食を提供するために、それまでできていなかった要因を分析され、業務量が増えることから、デイケアがない日曜日に提供する、作業者の変更や食札の工夫など、対策をしっかりと立案されていました。結果、パン食に関する入居者さんの満足度が向上され、素晴らしい取り組みでした。今後も、入所者さんの満足向上に取り組んでいただけたらと思います。

演題5は、刻み食は患者さんが食べやすいように工夫して提供されていますが、患者さんからは何を食べているのか分からない、食べにくいという声があり、取り組まれたテーマでした。実際には、まだ刻み食を提供している病院・施設があり、同じような問題が起きているのではないかと感じました。今回は、新たにソフト食の提供を取り入れて、課題達成型で取り組まれました。その中で、しっかりと成功シナリオを考えて実践し、目標を達成。ただ、効果の確認アンケートの中で、残念ながらソフト食の見た目が刻み食と変わらないという結果になりました。追加対策として見た目の改善にも取り組んでおり、素晴らしいことだと思います。今度もソフト食の種類や回数を増やして更に改善にして、患者さんに安全で楽しい食事を提供してください。

演題6は、診療報酬改定で施設類型加算型を算定してみるとばらつきがあり、安定的に算定するための取り組みで、施設の方針に基づいたテーマでした。課題達成型で取り組み、ベッド回転率と退所後の訪問指導マニュアルを攻め所として、成功シナリオや仕組みを考え、中間評価をしながらしっかりと取り組みを確立し、目標を達成しました。今後も、このTQM活動で確立した仕組みをしっかりと定着させて、加算型の維持に努めていただければと思います。

演題7は、スタッフ介入中のセンサーをオンのままにするということで、私がいる花川病院ではスタッフ介入中の電源はオフにしているため、入れ忘れというインシデントが発生しており、大変注目しました。オンのままだと不要なセンサーコールが鳴り、職員が確認するというのを減らすための取り組みでした。今回は、自動復旧システムを導入しながら、ナースコール作動が48%減になり目標達成しました。ナースコールが減り、スタッフの確認業務が減少して良かったと思いました。ただ、48床で25台のセンサーの稼働は、妥当でしょうか。センサーは、必要な人に使用しているという考察はありました。しかし、もう一度患者像やセンサーの使用基準、スタッフの配置などをしっかりと分析して対策をすると、更に高度な検証につながったのではないかと考えます。

演題8は、浴槽入浴ができていない入居者がいるということで、全員を浴槽入浴させたいというテーマに取り組まれました。個々の入居者さんの入浴方法を見直し、その方法を掲示するなど、分かりやすくして目標を達成されました。週3回入浴されていることは、素晴らしいと思いました。入居者さんを安全にゆっくりと入浴させることは、満足向上にもつながるので、これからも入浴方法を見直しながら、この活動を続けていただきたいです。

演題9は、整容の中の手の爪切りをテーマにしました。ケアポート板橋さんのTQM活動はいつも素晴らしくて、今年はどんなテーマに取り組んだのか楽しみにしていました。手の爪の長さを、科学的根拠から1.5mm以上が伸びているとしっかりと定義し、目標を設定されました。その点は素晴らしかったですし、テーマ設定や現状把握、要因分析などもとても丁寧に行われており、参考になりました。対策は、勉強会や知識の向上、道具の用意など入所者さんや職員の安全に配慮され、目標を達成。ひっかけ傷や手のひらの自傷行為が減り、今年も素晴らしい取り組みでした。

演題10は、病棟から在宅へ、看護と看護の連携はとても重要です。今回は、病棟看護師と外来看護師の連携というテーマに取り組まれました。病棟から外来への必要性は感じているものの、実際はできていないということで、しっかりと申し送り手順や要点、環境を整えるなど、とても参考になりました。目標を達成され、患者さんは外来通院を在宅生活で安心して継続できるようになりました。地域における看護連携や継続看護と言われていますが、身近な院内から看護連携を広げていくことは素晴らしい取り組みだと思います。



休憩を挟み、後半9題の審査員は、森総合税理士法人代表社員・森耕平さま、京セラコミュニケーションシステム株式会社医療・介護コンサルティング部副責任者・山田倫史さま、健育会看護顧問・坂元和子さまの3人。座長は、熱川温泉病院の小山内隆リハビリテーション部長でした。後半で発表された演題名などは下記です。

発表《後半》

1

超強化型老健における夜間オムツ交換回数の低減

ライフサポートねりま
本田 咲季(介護福祉士)
チーム名:FIT



2

当事業所における訪問件数の増大

ひまわり在宅サポートグループ
菅原 仁志(作業療法士)
チーム名:登米から支え隊



3

チーム医療が大事! 回復期病棟の構築と信念対立に向き合って。

湘南慶育病院
峯 まどか(作業療法士)
チーム名:ONE Team Keiiku



4

Mission Impossible ～ゴミ分別システムを考案することが出来るか～

ねりま健育会病院
高橋 美香(看護師)
チーム名:Not Impossible



5

ワイズマン導入による間接業務の低減

介護老人保健施設オアシス21
笠谷 こずえ(事務)
チーム名:オアシスお助け隊



6

患者さんの食環境の改善

花川病院
秋田 まゆみ(管理栄養士)
チーム名:食事・栄養サポートチーム



7

私物スマートフォンによる利用者個人情報漏洩の防止

ライフサポートひなた
関根 由美子(看護師)
チーム名:通所個人情報管理し隊



8

返戻0への挑戦

西伊豆健育会病院
田中 沙由里(医事課)
チーム名:チーム意地課



9

通所利用時間を充実させられるようにする取り組み ～4-5時間帯の実績向上に向けて～

ケアセンターけやき
吉田 卓(作業療法士)
チーム名:ブレイブ・けやきッサムズ



後半最後の演題の発表後も、座長の小山内リハビリテーション部長から、各演題について講評がありました。

内容は、下記の通りです。

私は、専門がリハビリテーションスタッフのため、その視点から講評も多いということをご了承ください。リハビリテーション部に関しては、目標設定をしっかりとするという点を重視します。そのため、やはりTQM活動に関しても、現状把握から要因分析をいかにしっかりやっているか、特に時間や費用など数字で出せるところは、しっかり出していきたいという希望も含めて、講評を述べます。

演題11は、現状把握から対策にかけて、夜間の尿量測定に関する検討はとても素晴らしいと思います。これからもこの取り組みを続けてほしいです。また、オムツ交換という動作のため、当然行っている方々の体には負担がかかります。疲労・腰痛を緩和という波及効果も素晴らしいのですが、これに関してはもう少し掘り下げていただくと、もっと良い発表になったのではないかと思います。テーマ名に超強化型という言葉が入っています。高い在宅復帰率を含めて色々とハードルがある中で超強化型を使っていると思うので、そこでのオムツ交換の立ち位置や在宅に復帰された方のオムツはどうするのかといったことを、リハビリの視点も交えていただくと更に良いのではないのでしょうか。

演題12は、特にエリア別だと明確でターゲットを絞りがよく、こうした現状把握は素晴らしいと思います。LINE WORKSというICT活用に関しては、できればもう少し詳しい説明をしていただくと助かります。少し残念だったのが、他にも色々なアプリやサービスがある中で、なぜそれを選んだのかという理由がなかったことです。それを明確にしつつ、必要に応じて時間や金銭面での費用対効果も入れる更に良いのではないかと感じました。

演題13は、作業療法士さんらしい発表で、非常に勉強になりました。新しい病院ならではの問題が明確になったのではないかと思います。多職種の違いにおける信念対立に取り組んだということは、画期的で面白い発表でした。今後も、継続していただきたいと思いますが、信念対立にもメリット、デメリットがあると思います。私が若い頃は、とにかくナースは怖かったという認識しかありません。病棟に行ったら怒られました。信念対立というのは当然起こりえるので、それをどう活用するのかといった点に関して今後取り組んでいただくと、非常に参考になります。

演題14は、ゴミの分別という職場環境に直結するというテーマで、それを選んだだけですごいですと思います。アンケートとテストを実施しており、現状把握と効果確認に関してしっかり比較しているところが、とても参考になると思います。ただ、マニュアル化やシステム化する中で、看護部はあの形できれいになると思いますが、リハ室など他部署以外ではどうかといった波及効果を見てみると、院内がもっときれいになると思います。

演題15は、初めてのTQM活動ということでありがとうございました。事務部門が、現場の間接業務まで考えてくれるということは、大変ありがたいテーマだと思います。波及効果で、一部の期間に余裕ができて生活リハビリの時間が増えたということは、素晴らしいと感じました。ただ、今回の活動に関しては、ターゲットを療養と事務の2つの間接業務にしたせいで、多少薄くなったという印象があります。1つに特化すれば、もっと時間を短縮できることがあったかもしれないという気がします。ワイズマンの費用が気になりましたが、システムを導入した以上はしっかり結果を出していただきたいと思います。

演題16は、食環境の改善ということでした。病棟の転換はなかなか大事業で、それに合わせて全病棟のシステムを全交換というイメージだったので、本当に大変だったと感じています。特に効果の検証では、他部門や実際に患者さんの意見を聞いたことが本当に素晴らしいです。今後何か新しいものを導入するときに、そうしたところはうちの施設でも、しっかりと考えながらやっていきたいと感じています。ただ、他の施設に滑らないトレイがあったということで、先に滑らないトレイありきという印象を受けました。滑らないトレイと滑るトレイがあり、それが必要な患者さんや利用者さんがどれだけいて、滑らないためには何が必要なのかといったことなども検証した結果、滑らないトレイを選択したということになった方が本来は良かったのかなと思います。

演題17は、個人情報漏洩に関するテーマでした。訪問も同様ですが、通所事業所では個人情報漏洩に関して、今かなり厳しく見られています。行政から指摘されることもあるので、非常に良いテーマです。今後も、少しずつこうした取り組みを続けていただきたいと思います。アンケートを3回実施して、効果確認の流れも良かったです。ただ、施設経由の連絡で利用者さんは困っていないのか、微妙な遅れがどこかで不備になっていないのか気になります。できれば、施設側で携帯電話を導入すると1台いくら、10台だといくらで、リハで頑張れば何カ月回収できるので買ってほしいと言えるくらい頑張ってもらいたいと思います。

演題18は、医事課が考える中心となる2つのターゲットに関連したテーマでした。要因解析と重要要因の検証、実施についてしっかり考えられていたと思います。中間確認と追加対策の結果、目標達成となり、流れも非常に素晴らしいと感じています。ただ、コピー機やパーテーションなど費用はいくらかかったのでしょうか。事務の負担が減った分、残業も減ったのでしょうか。医事課だからこそ、費用と時間の関係を明確に出した方が良かったと感じています。

演題19は、しっかりと目標を達成され、売り上げも満足度も向上して大変素晴らしいと思います。何より、利用者さんの休みの日に関してマニュアル化し、しっかりと対策が練られていることが良かったです。ただ、ターゲットにしているのは、利用者さんや利用者さんのご家族、ケアマネージャーだと思いますが、その方々の情報の分析はどうだったのか気になります。もう少し利用者やケアマネの目線で考える部分があり、それが入っていると更に良かったのではないかと感じました。



全発表の終了後、審査員による審査が行われ、最優秀賞、優秀賞、特別賞が各1題選ばれました。受賞演題とその内容は下記になります。

最優秀賞

当院における病棟から外来への退院前看護申し送り実施率の向上

石巻健育会病院
チーム名：つなぐWA!



地域包括ケアを推進するために、退院支援に着目。病棟から外来への退院前看護申し送り実施率が18%と低かったため、その向上を目指す。申し送り手順の作成と実施、在宅をイメージした退院支援の必要性をイメージできる勉強会の実施、外来看護師の担当病棟を固定し申し送りの環境を調整、申し送り内容と実施状況の確認などの対策を行い、退院前看護申し送り実施率100%を実現する。

優秀賞

有料老人ホームにおける満足な浴槽入浴の提供

ライフケアガーデン熱川
チーム名：源泉かけ流し三昧



入居者の3割が満足な浴槽入浴をできていない状況で、施設理念である「心の介護」を実現するために、全員の浴槽入浴を目指す。職員と入居者へのアンケート調査を行い、浴槽入浴ができていない要因や希望の浴槽入浴方法を把握。入居者のADLを個別に分析して、各入居者に合った浴槽入浴方法を実施する。それらの対策が実を結び、全ての入居者が浴槽入浴できるようになった。

特別賞

返戻0への挑戦

西伊豆健育会病院
チーム名：チーム意地課



返戻率1.0%以内の実現に向けて、返戻件数をいかに減少させるかを課題に設定。保険情報の誤りや記載要領の不備による返戻0件を目標に、保険情報をしっかりと確認できる環境の整備や保険情報入力後のチェック方法の見直し、記載要領不備を防ぐための情報共有のルール作りに取り組む。その結果、2019年10月診療分は、保険情報の誤り、記載要領不備共に返戻0件を達成した。

審査結果発表に続き、長谷川先生からセミナー全体を通して、下記のような講評をいただきました。



皆さん痛感していると思いますが、医療は日々変わっています。ケアの質に対する要求水準もどんどん変わっています。健育会グループに限らず、それに対して対応を迫られているというのが現在の状況です。その質の改善活動は現在の医療の中核を成しており、TQM活動は代表的なものだと思います。今回、審査員同士や健育会幹部の方たちとお話して、「大変発表がうまくなった」という声を聞きました。間違いなくうまくなっています。ただ、世の中の要求水準も上がっており、のんびりしているとたちまち追い付かれてしまいます。

TQM活動には、問題解決型と課題達成型の2つの大きなタイプがあります。どちらを選んでも良いと思います。問題解決型はPDCAの中のPの設定が難しく、課題解決型はCの内容を厳しく問われるというのが一般的な話です。本日の質疑応答を聞いていて面白かったのが、課題解決型を選んだ理由を尋ねる質問や、問題解決型の方が良かったのではという提案があったことです。ものすごくハイレベルな議論で、思わずうれしくなりました。

TQM活動を審査するにあたって最も重視しているポイントは、達成目標をいかに設定するかということです。やはり数値化しなければいけません。そして、それは部門の目標など経営上の意味がある必要があります。患者さんの笑顔を見たいという理由でも構いませんが、それを経営につながる目標に設定できれば、誰もが納得できるはずで、とはいえ、何でも数値化すれば良いというものではなく、事故の発生件数など発生頻度が少ないものはすうち数値化がするのが難しくなります。そのため、数字以外にも押さえる部分を作っておくと、良いのではないのでしょうか。TQM活動は業務として行うものなので、目標を達成するかどうかということが決定的に重要です。そこにはこだわりをもっていただきたいと思います。

2つめのポイントは、多職種で活動していることです。医療は、専門職の集まりのため、風通しが悪くなることがあります。TQMが、それぞれの役割を再確認するきっかけになれば良いと思います。抄録を拝見して、1チームに2職種だと少し寂しいと感じます。無理してでも3職種は、参加していただきたいという気持ちがあります。そして3つめは、定着です。組織のノウハウとして標準化し、定着を図る。最後に、発表に当たって聞く人にどんなメッセージを与えたいのかということが分かると良いですね。こうした発表のテクニックに関しては、皆さん素晴らしいです。

石巻健育会病院さんを高く評価した理由の1つは、情報の共有をテーマにしたことです。今回の発表では、施設内の話でしたが、今後はそれをどのような形で地域へ広げ、継続的な計画を担保するのかということにまで焦点を当てたことが良かったと思います。全体的に、聞いていてうれしくなる発表がたくさんありました。毎年このセミナーの審査委員長を務めさせていただくことを、非常に楽しみにしています。来年、より充実した発表が聞けることを期待しています。

長谷川先生の講評でセミナーが閉会した後は、懇親会の会場へ移動して、今年で5年目を迎える健育会グループ介護施設の年間MVP賞の表彰を行いました。同賞は各施設の月間MVP賞受賞者の中から職員間の投票によって選ばれており、私から受賞者に1人ずつ表彰状を授与。全員で記念撮影も行いました。受賞者の皆さんは、各施設の模範職員として今年も頑張ってください。各施設の受賞者（職種）とMVP賞名は下記のとおりです。なお、ケアセンターけやきの藤野宏彦さんは、体調不良のため、大変残念ながら欠席とのことでした。

1

**次の人のことを考えているで賞/
フォローが素敵で賞**

ライフケアガーデン熱川
富岡 光(介護福祉士)



2

**学習意欲が高いで賞/
アイデアマンで賞**

ライフケアガーデン湘南
篠原 寿文(介護福祉士)



3

**納涼祭イベント大賞/
敬老会イベント大賞**

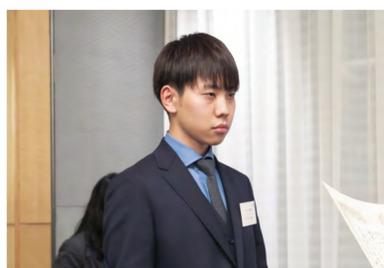
介護老人保健施設しおさい
高木 錠児(介護福祉士)



4

**「平成だった」で賞/
「ダイヤモンドの原石」で賞**

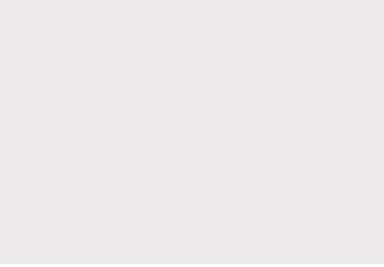
特別養護老人ホーム ケアポート板橋
三ツ石 和也(ケアワーカー)



5

あなたの特技が素敵で賞

ケアセンターけやき
藤野 宏彦(介護福祉士)



6

**(業務の) 整理整頓うまいで賞/
時代を先取りしているで賞**

ひまわり在宅サポートグループ
阿佐野 佳奈(事務)



7

今年(2019年)1年で最も頼られた人で賞

介護老人保健施設オアシス21
笠谷 こずえ(事務主任)



8

**健康管理に気を付けているで賞/
じめっとしていてもご利用者の心を晴れにしているで賞/
目指せ2連覇!!敬老会を盛り上げたで賞/
気持ちに余裕をもって仕事をしているで賞**

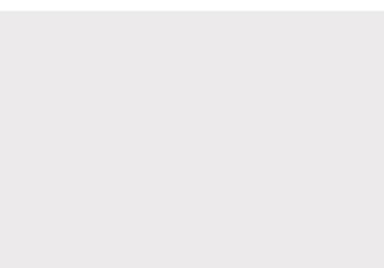
介護老人保健施設しおん
武田 祥子(介護福祉士)



9

**気づく、気づける職員/
体調管理を心がけている職員**

ライフサポートひなた
(調理師)



10

**ご家族への配慮大賞/
報告が的確で賞**

ライフサポートねりま
山下 裕子(看護師)



年間MVP賞の発表に続いて、懇親会を開催。乾杯の発声は、昨年厚生労働省から健育会に入職した宇都宮啓副理事長でした。宇都宮副理事長から、乾杯の発声の前に下記のあいさつをいただきました。

今回初めてTQM活動発表セミナーに参加させていただきました。大変失礼な話ですが、昨夜夜更かししてしまい、今日は寝不足気味でした。長時間のセミナーなので、寝てしまうのではないかと大変心配しているのですが、眠くなるような発表は1つ也没有ませんでした。大変面白かったです。とてもレベルが高い発表で、色々な職種の方々が1つのチームを作って活動しているということも、非常に素晴らしいことだと思います。

セミナー冒頭の竹川理事長の話にも出てきましたが、実は私は大学時代にラグビーをやっていました。ラグビーは、さまざまなタイプの方がそれぞれの個性を最大限に発揮したときに、勝利に近づくことができます。健育会も、まさにそうした雰囲気の中にあると感じました。今日は予選を勝ち残った優秀な方々の発表でしたが、残念ながら勝ち残れなかった方々も、それぞれの職場で問題意識を持って、課題に取り組んでいるはずです。その積み上げが、今日の発表につながっています。ぜひ、今後もその取り組みを続けていただきたいと思います。

各発表を聞いて、皆さん「自分たちの施設でも、同じようにやらなければいけない」と思うことがあったのではないのでしょうか。私も、本部で吸い上げてグループ全体でルール化や標準化すると良いと感じたものがありました。ぜひ、皆さんと共に、健育会を盛り上げていきたいと思います。



乾杯の後は歓談の時間になり、皆さんおいしい食事を楽しみつつ、情報交換を図るなど思い思いに過ごしていました。このようにグループの各病院・施設の職員が一堂に会す機会は、年に数回しかありません。病院や施設だけでなく職種を越えて交流できる場があることは、健育会全体としてはもちろん、職員一人ひとりにとっても大きなプラスになると思います。



楽しい時間は過ぎるのが早いもので、あっという間に中締めとなりました。中締めのあいさつは、昨年のTQM活動全国大会で大会長の大役を務められた石巻健育会病院の勝又貴夫院長からいただきました。

本日は、当院のチームが最優秀賞をいただき、誠にありがとうございました。最優秀賞をいただいた演題は、当院が誇る看護部の師長さんたちが作ったものです。昨年11月のTQM活動全国大会で得たノウハウを結集して、決死の覚悟で本日の発表に臨んだようです。全国大会の運営は、当院のスタッフだけでまかなえるものではなく、本部や各病院・施設から応援をいただいたおかげで、円滑に進められたと思います。来週は、今年の大会の運営病院への引き継ぎ式で大阪に行ってまいります。グループ一丸となって成功につなげたことを、お伝えしてきます。

健育会のTQM活動発表セミナーには5～6年出席していますが、確かにここ2～3年は非常にレベルが上がっています。賞をいただいた演題とそれ以外の差は何かと考えてみると、良い題材を選んだこととより分かりやすい説明をしていることだと、私は思います。宇都宮副理事長の話にも出ましたが、健育会全体に関わるような題材を選ぶと良いのではないのでしょうか。



今年の全国大会の参加チームはまだ決まっていますが、受賞チームはもちろん、全てのチームが活動内容と発表のテクニックの両方に磨きをかけ、昨年以上の成績を残してほしいと思います。

2019年度のグループ内の予選会では、合計67演題が発表されました。今回のセミナーに参加できなかったチームも、次回は参加できるように、今年1年間、頑張ってください。また、既存のチームに加えて、新たなチームが立ち上がることも望みます。職員一人ひとりが常に改善しようと心掛け、グループ内のTQM活動が活発になれば、健育会全体がより良い方向へ進むことになるはずです。健育会の未来に向けて、皆さんのより一層の奮起を期待しています。